



各地からの たよりの

アサヒ森林体験

活動in仁別

技術普及課

5月20日(土)、秋田市の「仁別国民の森」において、アサヒビル株式会社秋田支社、仁別森林博物館ボランティア案内会、太平山観光開発株式会社並びに東北森林管理局及び秋田森林管理署の参加者38名により、今回で14回目となる「アサヒ森林体験活動in仁別(森林環境整備活動)」を行いました。

東北森林管理局では、アサヒビル株式会社秋田支社及び、仁別森林博物館ボランティア案内会と「仁別森林博物館及び仁別国民の森等を活用した体験型森林環境教育等の実施に関する協定」(三者協定)を締結し、毎年、仁別森林博物館周辺で活動を行っています。これは、アサヒビル株式会社秋田支社の社員や家族の皆さんが、森林環境整備活動をおして森林と人々の生活環境との関係について理解と関心を深めるために行っているものです。

また、太平山観光開発株式会社とは「仁別国民の森」を活用した自然とのふれあい企画等実施に関する協定書」を締結し



トイレ、看板のペンキ塗り

ており、三者協定活動にも協力して頂いています。

この時期としては気温が上がり暑い日となりましたが、新緑が美しい仁別の森林に囲まれながら、冬季の積雪や風雨にさらされ傷んでしまった仁別森林博物館のトイレ施設、木製看板や柵柱にペンキを塗り直したり、散策路の雑草の刈り払いを行ったりと、参加者は心地よい汗を流していました。

この活動で、10年ぶりにペンキを塗り直したトイレ施設や看板等は外観などが生まれ変わったようにきれいになりました。



散策路の草刈り

境を整えることができました。

参加者から「ペンキを塗ったら見違えるようにきれいになった、定期的にやっていきたい。」「子供たちと一緒に活動が行えて良い経験となりました。」等の感想が寄せられ、この体験を通じて森林や樹木に少しでも興味を持って頂けたのではないかと思います。

昼食後、仁別森林博物館ボランティア案内会

の案内で、爽やかな青空の下、この季節ならではの植物などの説明を受けながら自然観察を行いました。日常では感じることができない自然を堪能



柵柱のペンキ塗り

能し、充実した一日を過ごすことができました。

当日は、天候にも恵まれ気持ちよく活動を行うことができ、今後も三者で協力して活動を行っていくことを確認して無事に終了することができました。

この機会にぜひ「仁別森林博物館」や「国民の森」を訪れてみませんか。



自然観察の様子

第39回

「森林の市」を開催

技術普及課

「森林の市 in AKITA 実行委員会」の主催(東北森林管理局が共催)により、5月27日(土)に第39回「森林の市」を東北森林管理局構内で開催しました。

「森林の市」は、市民の皆様へ森林・林業や国有林野事業への理解を深めていただくとともに、山菜や木工品等の販売を通じて、山の恵みに触れていた

だくことを目的に、1985年（昭和60年）から毎年開催しています。当日は朝から雨が降り続いていますが、開会式の前には雨も上がり、傘が不要な天候の中での開催となり、700名近い方に来場頂きました。



テープカットにはスギッチ、森っちが登場

開会式では、来場いただいた親子一組、実行委員長、東北森林管理局長によるテープカットに続き、イロハモミジの苗木のプレゼントを行いました。早朝から並んだ方も多数いらした事から、準備した200本の苗木は程なく品切れとなりました。今回の「森林の市」は、局駐車場にテント19基を設置して山菜、木工品等の山の恵みや山からの産物を販売する「販売コーナー」、庁舎2階で木工クラフト等を楽しんで頂く「体験コーナー」



イロハモミジの苗木配布

を催しの目玉として開催しました。「販売コーナー」には、林業事業者、製材業者、森林組合連合会などの17団体から出展があり、各団体が持ち寄った自慢のアイコ、ウド、ゼンマイ等の旬の山菜や山野草、そして青森ヒバのまな板や秋田スギの木工品、木酢液などを多くの方が購入されていました。また、昼食の時間帯は山菜汁の販売コーナーが賑わいました。



旬の山菜の販売

「体験コーナー」では、東北森林管理局や仁別森林博物館ボランティア案内会などが出展し、様々な木の実や葉っぱを使った木工クラフト、秋田スギを使用した積み木コーナー、森林学習コーナーなど、幅広い年齢層の方が楽しめるようメニューを凝らして実施したところ、様々な年代の方が真剣にクラフト製作などに取り組んでいました。また、白神山地森林生態系保護地域等の見所紹介と生息



航空写真の実体視

様々な年代の方が真剣にクラフト製作などに取り組んでいました。また、白神山地森林生態系保護地域等の見所紹介と生息



木工クラフト

する鳥獣の写真展では、多くの方から野鳥のアカシヨウビオンなどの生態に関する質問を受けました。会場内では、緑の募金活動も行われ、多くの方に募金に協力いただきました。この募金は秋田県内の緑化活動に有効に活用されます。募金に協力いただいた来場者の皆様にあらかじめ感謝申し上げます。

これからも多くの方に来場いただくような「森林の市」にするために、市民の皆様楽しんで頂けるメニューを用意して、皆様のご来場をお待ちしております。



秋田スギの積み木による大作

田山小学校5年生が 森林の働き等について 学習しました

岩手北部森林管理署

岩手北部森林管理署では、毎年、小学校の児童に森林学習を行っています。今年も、複数の地元小学校より森林学習への協力依頼があり、職員が小学校に向いて講義等を行うこととしています。

5月10日（水）に行った八幡平市立田山小学校での森林学習では、5年生の児童10人が、森林管理署の仕事内容や森林の働きについて学習しました。田山小学校の校庭からも山の景色がよく見えますが、その中に国有林もあることを知っている児童は少なく、地元にも多くの国有林があることを説明すると、みんな意外そうな表情をしていました。また、森林の働きについて、二酸化炭素を吸収することで地球温暖化防止に貢献することや、土砂災害を防ぐこと、木材として使用されることなど、多くの働きがあることを熱心に学んでいました。木材の使い道にはどんなものがあるか答えてもらったところ、机、鉛筆、家、薪などが様々な回答が出ました。さらに、伐倒作



教室での学習の様子

業の様子について写真を見せたところ「ハーベストだ！」と発言してくれた児童もいるなど、さすが林業が盛んな地域だと実感しました。

翌週の17日(水)には、田山小学校



元気良く観察スタート



樹木の名前や特徴をメモ

た。その後、校庭の外に場所を移し、近くの断層で地層の勉強をしたほか、治山ダムの見学を行いました。最後は再び学校に戻り、森林の働きの一つである「土砂災害の防止」について実験を行いました。植物の生えた土と生えていない土を箱に入れ、じょうろで水をかけると、植物が生えている土は土

砂があまり流れませんが、何も生えていない土ではすぐに土砂が流れてしまいました。樹木や植物が根を張ることで土砂が流れにくくなることを実感した実験でした。

今後、様々な内容の森林学習を予定しています。児童の皆さんには、楽しみながら少しでも森林の働きや樹木の名前について学んでもらえたいと思います。



「土砂災害の防止」実験

高校生による林業体験 由利森林管理署

由利森林管理署は、平成22年から森林環境教育の一環として、水林海岸林(国有林)において秋田県立矢島高校1年生による林業体験学習に取り組んでいます。

この体験学習は、高校における総合的な学習の一環として「地域の自然に触れ合うことにより自然の豊かさを実感し、地域に対する理解を深め、さらに環境問題を考える」というテーマで、

毎年春と秋に学校側の要請にこたえ実施しているものです。

学習フィールドとなるクロマツ林は、飛砂や強風から市民の生活を守り安全で快適な暮らしを提供する役割を果たしてきましたが、昭和58年以降の松くい虫被害及び平成10年の豪雪により甚大な被害を受け、その効果が減少しました。そのため、治山事業及び市民ボランティアによる植栽・保育を実施し海岸林を再生してきました。

また、天然更新した天然クロマツは、過密な状態で成育し試験的に本数調整伐を実施しており、この海岸林再生作業の一部を高校生が担うとともに、環境への関心を深めながら地域へ貢献してもらうことをねらいとして、5月22日(月)に生徒34人によりクロマツ林の本数調整伐を行いました。

最初に、由利森林管理署長より海岸林の目的や「山の日」等について挨拶があり、その後、当署職員により、クロマツ林の整備方法の説明とノコギリの使い方を実演してから作業を開始し



本数調整伐作業の説明を聞く生徒



慣れないノコギリ作業



搬出したクロマツ

ました。生徒達は悪戦苦闘しながら、林の中に分け入りクロマツの根元近くを握り地際から伐っていきま

など林業体験の感想が話されました。この林業体験は、新聞に掲載され、当署における海岸林再生と森林環境教育がPRされました。

最後に生徒から「今日の体験は初めてであり大変な作業だったが木を伐ることが出来た。」

